

筑波のかえる



高次脳機能障害友の会・いばらき

2024年 ～～ 第62号 ～～



高次脳機能障害友の会・いばらき

〒305-0817

茨城県つくば市研究学園4-13-8

TEL 080-5901-9979

E-mail kojinouibaraki@yahoo.co.jp

H.P <http://nosonsohoibaraki.sunnyday.jp/>



《 6 2 号内容一覧 》

はじめに	1
県南の広場	2
県北の広場	3
神栖の広場・当事者会	4
関係機関訪問	
牛久市社会福祉協議会	5
がんばってる人	6
要望書提出	7
新聞記事より	8
支援センターから	9
お知らせ・お願い	10



今月の表紙は、県南集会のスナップ写真を放射状に並べてみました。真ん中のドーナツの中には、みんなで作ったケーキやフルーツの盛り合わせを配置してみました。イチゴのケーキもフルーツも、お店の商品に引けを取らないものばかりです。よく見ると、たい焼きもあります。食べてしまうのがもったいないような感じです。

スナップ写真もこんな風に並べてみると、とても面白い作品になるということも意外な発見でした。

はじめに

陽ざしうららかに春の気配もようやく整い、心浮き立つ季節となりました。皆さまお元気にお過ごしでしょうか。2024 年を迎えて早くも 4 月となり、当会の新年度がスタートされました。今年度もどうぞよろしくお願い致します。



さて、新年度早々に嬉しいニュースをご紹介します。

茨城県の施策として、適切な診療・検査・診断を経て各種サービス等に繋げるとともに、スムーズに地域移行を進めていくためには地域において拠点となる医療機関が必要ということで、茨城県を 5 ブロックの地域に分け「高次脳機能障害地域支援拠点病院の指定」が令和 3 年度から始まりました。指定期間は 3 年間ということで「志村大宮病院」「立川記念病院」「筑波記念病院」が指定を受け、院内に配置された支援コーディネーターを中心に茨城県の地域支援ネットワーク体制の構築に向けて大変ご尽力くださいました。そして満期を迎えたことから新たに公募された結果「志村大宮病院」「立川記念病院」「白十字総合病院」「筑波記念病院」「古河総合病院」の 5 病院が今年度指定されました。茨城県全域において「高次脳機能障害地域支援拠点病院」が指定されたということで、今後の地域支援が進むことを願っています。（詳細は本誌 9 ページをご覧ください。）

地域支援ネットワークの構築は当会もずっと願ってきたことです。高次脳機能障害の症状は多様であり、当事者が生活する上で求められる支援のニーズも多岐にわたります。発症・受傷からその人なりの社会参加に至るまで切れ目のない支援を受けるためには多機関の連携による継続的な関わりが必要になってきます。困った時には自分の住む地域で相談ができ、必要な支援を受けることが出来れば当事者の生活は大きな安心に繋がりますね。何れキーパーソンとなる家族がいなくなったとしても「周りの人たちと交流をもって当事者が生きいきと暮らしていったほしい」それは家族皆さんの願いだと思います。これからの地域支援の発展をおおいに期待すると共に、家族会も出来ることがあれば協力していきたいと思っています。

そして、令和 3 年 5 月に障害者差別解消法が改正され、今年度 4 月 1 日からこれまで企業や店舗など民間事業者には“努力義務”とされてきた「合理的配慮」が、国や自治体と同じように“義務”として課せられるということです。世の中は障害のない人を基準に作られているため、障がいのある人にとっては見える壁・見えない壁が至る所にあります。その壁は社会によって作られていますから、それを取り除くのは社会の責務として捉えることが必要…ということです。この法律の施行をきっかけに「障がいは個人ではなく社会にある」こうした意識に変えられるよう、様々な人が社会で感じている“壁”や“差別”に対し、すべての人が目を向けるよう意識が変わっていくことが大事なのですね。私も不勉強なので、実際にこのことにより社会にどのような影響がもたらされるのか想像する事も難しいのですが、これから学んでいきたいと思っています。

最後になりましたが「高次脳機能障害友の会・いばらき」は今年度、設立 20 周年を迎えました。

当会の設立時は高次脳機能障害の情報は無いに等しい状況でしたので、藁をもつかむ思いで集まった家族達がたくさんの家族や当事者の方達に出会い、励まされたり元気をもらったりすることで交流を深め、たくさんの支援者や関係機関の方々にご協力頂いて、歩みを進めてまいりました。

会員（正会員・賛助会員）の皆様、関係支援者の皆様、お礼を申し上げますとともに、これからもどうぞよろしくお願い致します。

滝沢 静江

《県南集会》

3月9日（日）1：00～県南集会を行いました。参加者は当事者2名、家族8名、今回も加藤先生が支援者として参加して下さい、計11名でした。

新治地区公民館の調理室は、日差したっぷりで広く、とても快適な部屋でした。集合すると早速“あみだくじ”で3名ずつのグループに分かれ調理開始です。

メニューは

- ・既成のスポンジケーキの飾りつけ
- ・タイ焼き（タイ焼き器は会員さん持参のもの）
- ・どら焼き（会員さん持参のホットプレートで自由に）

常日頃、ご家庭ではプロの調理の腕前の皆さんも、このようなメニューにはあまり慣れていません。でも、イチゴ等の果物や生クリームやあんこなどを前に、すっかりままごと気分になってしまいました。気合を入れて生クリームをつけたり、鼻歌交じりにイチゴを切ったり、童心に帰ってグループの枠も忘れ、美味しそうな、また楽しいお菓子が次々に誕生しました。

その後は、セルフサービスによりお茶会をしました。美味しいケーキをいただきながら、1年間を振り返りながら感想を・・・と言うこともなく、ただにぎやかにおしゃべりのひとときを楽しみました。

コロナ禍でやりたいという要望はあってもできず、何年も我慢してきた調理会。これからは心配なく開催できるようになるといいですね。次回をお楽しみに。（浅野）

<<<< 集会に参加して >>>>

今回の当事者と家族がともに楽しむ県南集会は、新治地区公民館の調理実習室で開催されました。調理実習室に入室すると、調理台はイエローでモダンな形をしていました。今どきの調理室？と何だかうれしくなりました。

当事者も家族も一緒にグループに分かれて、ホットケーキミックスを使ってホットプレートでどらやきを作り、鯛焼き器で鯛焼きを作り、そしてスポンジケーキにたっぷりのイチゴとホイップクリームでデコレーションしました。デコレーションは、当事者の方が腕を振るってくださいました。とても豪華なスイーツが山盛りになりました。最後に、皆さんとティータイム。一人分の量は、言うまでもありません。差し入れてくださった柑橘がスイーツと相性が良く美味しく頂きました。ごちそうさまでした。

日頃の悩みは語らずとも、温かな雰囲気の中で私の気持ちは癒され、お腹も十分に満たされ楽しい交流会でした。ありがとうございました。（I・K）



県北の広場

3つの集会が開催されました。

令和5年度 第6回県北集会 2月25日(日) 13:30~14:30

場 所 : 水戸市福祉ボランティア会館 小研修室

内 容 : 使用済み切手の整理作業

参加者 : 13名(当事者2名、家族2名、支援者6名、学生3名)

今回は、毎年の恒例となっている「使用済み切手の整理作業」を行いました。

「これ見て…」「きれい」などと 隣同士で一枚の切手を眺めてみたり、切手自体手にしたことのないという学生さんの言葉にびっくりしたり…。作業はなごやかに、そしてスムーズに行われました。

ミニレクは、「試してみよう、嚥下体操!!」

学生さんが主体となって 誤嚥防止の首や舌の体操を行いました。

またやってほしいの声が多くありました。



整理した切手は、3月22日、水戸市社会福祉協議会に寄付しました。

できることで社会貢献。続けていきましょう!!

家族の集い・・・家族の日常の様子を聞き合ったり、情報交換を行いました

第5回 1月19日(金) 10:00~12:00

参加者: 5名(家族2名、支援者2名、県支援コーディネーター1名)

第6回 3月22日(金) 10:00~12:00

参加者: 6名(家族2名、支援者3名、県支援コーディネーター1名)

開催場所: 水戸市福祉ボランティア会館

神栖の広場

若葉が芽吹き、光まぶしい季節が巡ってきました。神の池（ごうのいけ）周辺には、ソメイヨシノ、大島桜など約2000本の桜が咲き、春を堪能できます。どうぞお散歩におでかけください。

集会では当事者の正月の生活に関して、「来客の対応（うれしいけど疲れる）もできるようになった」「久しぶりに友人とファミレスで楽しい時間を過ごせた。それには、事前に何度か注文の仕方の練習に通った」等、少しずつ前向きな行動がとれるようになってきた、うれしい話がありました。



2月11日の読売新聞朝刊に、県方針で「新年度から精神障害2級にも医療費助成を広げる」との記事が載りました。高次脳機能障害であっても公的補助の対象外とされる当事者も多く、今回の改定で新たに450人程が加わり、外来や入院の自己負担がなくなるとの事なので、朗報であることを願っています。

1月から高次脳機能障害の理解を深めたいと、神栖集会に理学療法士の方の参加があります。今までは談話の集会でしたが、アドバイスをいただき、運動を加えて硬くなった身体を労わる集会に進展できればと、思っています。（御所脇）

《神栖集会の報告》

- | | | | | |
|----|-------|--------------|------------------|---------------|
| 1月 | 相談者なし | 会員3名 | 社協2名 | 支援センター（高松 CN） |
| | | 神栖神経リハビリセンター | 滑川さん | |
| 2月 | 相談者1名 | 会員3名 | 支援センター（岡野 CN） | |
| | | 神栖神経リハビリセンター | 滑川さん | |
| 3月 | 相談者なし | 会員2名 | 支援センター（高橋副センター長） | |
| | | 神栖神経リハビリセンター | 滑川さん | |

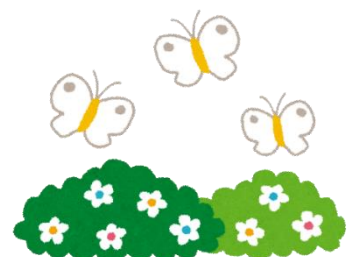
当事者会

3月3日の当事者会は、当事者12名と支援者6名の計18名でした。支援者には言語聴覚士の加藤先生、臨床心理士の笹島先生、高次脳機能障害支援センターの高橋さんと高松さん、当事者サポートの森下さん、そして進行役の飛田が参加しました。

参加者の方々が、以前よりもさらに会話を楽しんでいる姿が増えているように感じました。途中参加した方々には、当事者が率先して受付や名札を配り、座席に案内するなど、安心して参加できる話題豊富な空間になりました。

今回で、当事者会は20回を迎えました。当事者同士が支え合い、安心して意見を交換できる場として、成熟した会に発展していると感じます。進行役としては簡単な進行はできても、専門的なアドバイスが難しいと感じることが増えてきました。知識不足ゆえに、当事者の悩みや質問に対応できないとき、支援者の方々のフォローが本当にありがたいと感じました。

今後は、当事者が抱える問題に適切な専門支援を継続できる体制を整えていくことが必要と感じた会になりました。（飛田）



関係機関訪問 ②⑧

牛久市社会福祉協議会

住所 牛久市女化町859番地3

電話 029-871-4384



◇ 牛久市の障害者福祉についてお聞きするために私たちが伺ったのは、市郊外にある「総合福祉センター」でした。緑の屋根と茶色の壁の大きな建物はとても落ち着いた雰囲気、周りの風景に溶け込んでいました。中に入ると天井の高い広々としたロビーがあり、利用する方々もたくさん見られ活気が感じられました。

◎ お話は、福祉グループ長補佐の馬場傑さんと、身障者デイサービス担当の市橋裕一さんに伺いました。お二人の名刺の裏には、「子育てから介護まで**幸せ**づくりをサポートいたします！」と印刷されていました。牛久市福祉の一貫した基本理念が一目でわかり、「福祉のまち」という印象を受けました。



◎ 牛久市では、一人の不幸も見逃さない地域づくりを目指していて、小学校区を単位とした「地区社協」を活動基盤とした様々な特色ある活動をしています。地区ごとに事務所も置かれ、市民からの困りごとの相談を受けると、相談内容に応じた適切な支援を行っています。



◎ お二人に館内を案内していただきました。広い館内は明るく開放的で、様々な活動の様子が見られました。障害のある子どもたちが通う放課後デイサービス「すてっぷ」や、知的障害のある方々が通うデイサービス「わくわく」がありました。「ステップ」には看護師さんも常駐しているので、痰の吸引や経管栄養等が必要な重度障害のある子どもたちも安心して通えます。

「わくわく」では就労継続支援事業（B型）・自立訓練（生活訓練）・生活介護の3事業を行っていました。訪問した日も本当にたくさんの方々が活動をしていました。B型作業所では、地域の事業所や市役所などから請け負った作業を生き生きとする姿が見られました。また、玄関の壁面には創作活動で制作した素晴らしい作品が沢山飾られていました。嬉しそうに紹介されるお二人の笑顔が、とても印象的でした。

しっかりとした素敵な女性に!!

土浦市 土屋めぐみさん



- ◇ 目の前に広々とした蓮田が広がる、かすみがうら市の事業所「てのひら」で、めぐみさんとお会いしました。私たちが伺ったのは「朝の会」の最中で、皆で1日の予定の確認をしているところでした。めぐみさんは「今日は、乾燥野菜を作る作業をします」としっかりと発言していました。
- ◇ 「てのひら」は特別支援学校を退職された方が立ち上げた事業所と聞いていましたが、めぐみさんはこの「てのひら」が大変気に入っていて、通うのがとても楽しいと話していました。月曜から金曜まで平日はほぼ毎日通っています。昼食はご飯とみそ汁は自分たちで作るそうです。伺った日はめぐみさんの米研ぎ当番の日で、上手にお米を研いで炊飯器にセットしていました。
- ◇ 乾燥野菜を作る作業の中では、「野菜を切る」のが楽しいそうです。大根、シイタケ、ハスなどを切って乾燥させ、袋に詰めて仕上げるのだそうです。昼食に使うピーマンを切るのが特に好きだと話してくれました。(食べるのも好きだそうです。)
- ◇ 休みの日はテレビを見たり、クロスワードやスケルトンなどのパズルをして過ごすそうです。クロスワードでわからない言葉などが出てきたら、電子辞書を使って調べるのだと教えてくれました。
- ◇ 特別支援学校の先生をしている妹さんとはとても仲が良いそうです。筋肉を動かしたり歩行訓練などのリハビリにも妹さんが協力してくれるそうです。妹さんと一緒に行ったディズニーランドの楽しかった思い出話もしてくれました。



数年前にお会いした時は、車いすが多かったように思いましたが、今回お会いした時には、装具をつけてしっかりと歩かれていたので驚きました。めぐみさんが「外出の時は杖を使うけど、家の中では装具だけで生活している」と教えてくれました。食事の栄養管理、リハビリ、歩行訓練等の成果なのでしょう。

食事の時に「ワゴンに乗せて運ぶ」お手伝いもしているとのこと。本当は包丁を使って食事作りの手伝いもしたいけど、母が「危ないから」と言ってさせてくれないと、話していました。お母さんは「自分がやった方が早いから」と、おっしゃっていましたが、内心はきっとうれしいですよ。めぐみさん!!

令和 5 年度要望書提出

2024 年 2 月 5 日（月）、茨城県庁議会棟 2 階小会議室にて要望書を県知事と障害福祉課長に提出してきました。茨城県からは障害福祉課の森田課長、黒澤副参事、薬師寺担当者、支援センターの高橋副センター長、浅野コーディネーターが参加し、友の会からは滝沢会長、細川副会長、本田副会長、そして毎年応援してくださる飯田智男県議会議員が参加されました。また、茨城新聞社の矢幡（やばた）記者が取材の写真撮影で参加しました。

まず滝沢会長から福祉課や高次脳機能障害支援センターの方々の日頃のご尽力と地域支援拠点病院の設定への感謝を伝え、次いで本田副会長から要望書の趣旨を事例など交え説明しました。

森田福祉課長からは友の会に対して支援センター運営への協力の感謝と今後も友の会を含め市町村、関係機関、教育等の部署とうまく役割分担をとり引き続き支援体制の構築に取り組んでいく旨の話がありました。

その後、意見交換では以下が話されました。

- ・支援センターと友の会の協力関係がうまくまわっている（森田課長）
- ・リハビリは専門職協会の自立訓練の頑張りがあり、今後は機能回復、精神的回復の取組へも期待（滝沢会長）
- ・学校現場での高次脳機能障害の児童の孤立に対して、児童の様子に気づける人が必要（本田副会長）

それは我々としても考えなければいけない視点（森田課長）

最後に、飯田智男県議会議員から閉会の挨拶として今後の一層の支援の希望が述べられ終了しました。

終了後に県庁のラウンジにて茨城新聞の八幡記者から取材を受け、翌日 2/6 の朝刊紙面に掲載されました。



高次脳機能障害は、病気
障害者の家族会「高次脳機能障害友の会・いばらき」が5日、支援の充実を求めて県に要望書を提出した。地域の包括的なサポート体制の構築や実態調査の実施を求めた。

支援充実、実態調査を 高次脳機能障害 家族会が県に要望



森田教司県障害福祉課長（右）に要望書を手渡す滝沢静江会長＝県議会棟

「障害」とも言われる。障害のある人の家族らでつくる同会は毎年、当事者や家族を支える体制づくりを求めて、県に要望書を提出している。

要望書は①地域支援拠点機関の構築②地域支援の連携体制の構築③各機関の支援の充実④法整備、体系整備、障害認知度の向上と啓発の4項目。①では、県内に3病院ある高次脳機能障害地域支援拠点病院を中心とした支援体制の構築や拠点病院の増加を求めた。

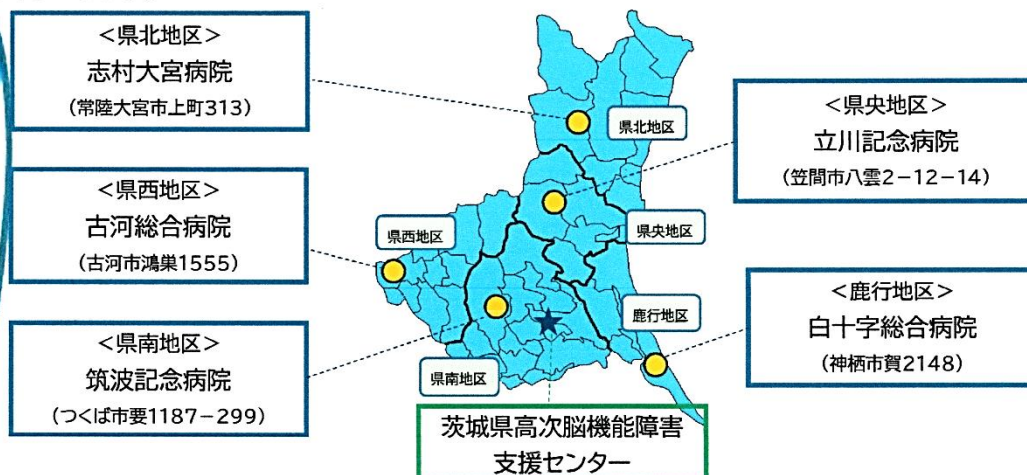
この日、滝沢静江会長ら4人が県議会棟を訪れ、森田教司県障害福祉課長に要望書を手渡した。滝沢会長は「誰にでも起こり得る障害。支援を受ける立場の人だけでなく、皆さんへの理解が進んでほしい」と話した。（矢幡佳那子）

これを見た読者（当事者）の方から「励まされました。」というお手紙を頂きました。

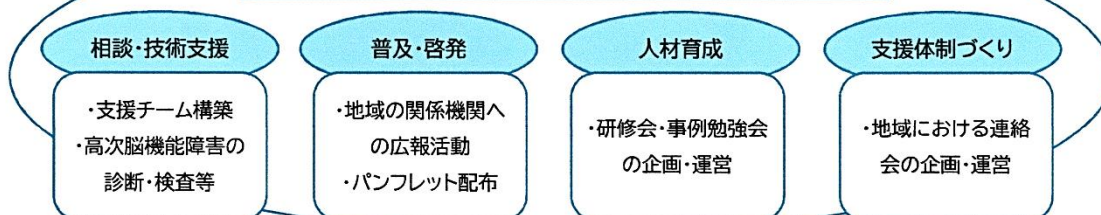
茨城県高次脳機能障害支援体制のご案内

茨城県では、高次脳機能障害者の支援の充実を図り、更なる地域支援ネットワーク構築を進めるために各地区に「**高次脳機能障害地域支援拠点病院**」を設置することといたしました。

各地域の支援拠点病院では、高次脳機能障害支援センターとの連携のもと、研修会や連絡会の企画、高次脳機能障害の普及啓発活動等を行い、各地域において適切な支援を受けられる体制を整備してまいります。



高次脳機能障害支援体制整備事業～主な委託事業の内容



～高次脳機能障害とは～

脳出血や脳梗塞、脳炎、低酸素脳症などの疾患や、交通事故・転落事故などの脳外傷により、脳が損傷を受け、記憶力や注意力、感情のコントロールなどの「高次な」脳機能が低下する障害です。

外見では分かりにくい側面があり、本人自身も自覚しにくいことがあるため、生活や仕事等に支障が出て、周囲の理解を必要とされる障害とされています。

高次脳機能障害に関する主な相談については、支援センターにて引き続き、受け付けております。

○相談時間:月～金9:00～17:00(祝日、年末年始除く)

○相談電話:029-887-2605

【問い合わせ先・作成者】

〒300-0394 茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2

茨城県保健福祉部障害福祉課

茨城県高次脳機能障害支援センター

電話:029-887-2605

FAX:029-887-2655

koujinou.sien@pref.ibaraki.lg.jp



お知らせ

今後の行事予定（5月～7月）

◇家族会交流室	★5月10日(金)★6月14日(金)★7月12日(金)
◇県北地区 県北集会	★4月28日(日)
家族の集い	★5月17日(金)
◇神栖地区 神栖集会	★4月24日(水)★5月22日(水)★6月26日(水)
◇県南地区 県南集会	★未定
◇当事者会	★5月19日(日)
◇役員会	★4月16日(火)
◇令和6年度総会	★5月26日(日)



役員会報告

- 1月16日(火) (1) 各集会、交流室、当事者会等についての報告
(2) 県リハビリテーション専門職協会研修会
(3) 要望書提出について
- 3月28日(木) (1) 各集会、交流室、当事者会等についての報告
(2) 令和6年度総会について
(3) 福祉団体等支援事業費補助金について

交流室からの報告

- 1月12日 相談者なし 会員4名 支援センター ⇒ 浅野 CN
- 2月 9日 相談者1組 会員6名 支援センター ⇒ 田中 CN
※電話相談 7件
- 3月 8日 相談者2組 会員3名 支援センター ⇒ 高橋副センター長
※電話相談 4件

編集後記

見逃してしまった新聞記事を調べに、久しぶりに近くの図書館に行きました。探してみるとどうも最近の物しか無さそうです。受付でお聞きすると、閲覧室の保管は1か月間とのことで、私が探していた新聞を裏の方の書庫(?)から出してきてくれました。コピーしたいとお願いすると、親切にコピーまでしてくれました。(有料でしたが)

昔からあまり本に親しみのない私には、図書館はとっつきにくい場所で、あまり足を運ぶことはないのですが、ゆっくりと観察してみると、今どきの図書館はとても親しみやすいです。置いてある本もかなりバラエティーに富んでいるので、面白い本が見つかるかもしれません。

「今さらこの年齢になって・・・」なんて思わず時々覗いてみようかなと思いました。(石)

